

令和5年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議(第2回) 議事要録

1 日時

令和6年1月15日(月曜日) 午後1時～2時30分

2 場所

むさしのエコre ゾート

3 出席者

小澤委員長、中西委員、神村委員、村井委員、野村委員、大塚委員

4 議事要録

(1)令和6年度事業の考え方について(資料1)

- ・ 環境の学校 Youth プロジェクトについて、①想定する参加動機を意識したプログラムの作成 ②現場に触れる機会の創出 ③アウトリーチの推進 を行う。委員からの事例紹介を参考にしたい。
- ・ 環境の学校について、地産地消ビールの回は参加者が多く、また、参加者からは「ホップ作りなど、循環するビールづくりの作業に加わりたい」という要望が多かった。循環につながる具体的な行動の受け皿を用意していくことで、一連の講座にする等の方法も考えられる。
- ・ ワークショップ、自由来館対応等について、「来館するといつも何かやっている」と感じるようなイメージを作りたい。①冬に実施していたワークショップを分散して通年で土日で開催する ②ものづくり工房の廃材の入手先を拡大する ③土日にカフェを試行運営することの可否の検討 等を考えている。

(2)事例紹介

『SDGs に貢献できるエコ re ゾートと“学び”～EE・ESD の実践を通して“学びの質”を考える～』

- ・ 都市化によって人工物が広がり「外なる自然破壊」が進んでいる。また、高度情報化やコロナ感染によって、社会の分断化や、子どもたちが歳を重ねるにつれ自己肯定感が低くなるような「内なる自然破壊」という人間性解体にまでいつているのではないかと感じている。
- ・ 新学習指導要領等で、「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力(生きる力)を備えた子どもを育む」、「学びに向かう力、人間性等の涵養」として、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性について掲げている。
- ・ 子どもは自然体験や遊びながら育つ。信頼できる大人とのかかわりから社会性を獲得していき、愛着形成が基本となり、遊びを通して、身体能力や知的、感覚、好奇心、自立、社会性などが育まれていく。そうした機会が、エコ re ゾートの1階のものづくり工房でもいっぱいあり、遊ぶことによって学ぶ意欲が育まれるということだろう。

- ・ 総合的な学習の時間が創設されて、小中学生の教育は、知識伝達型でない探究創出表現型に変わってきている。暗黙知、伝統知、生活知というようなものと、科学、学校教育などで学んでいき、相互に影響を及ぼしていくのではないかと考えている。
- ・ 気づきから共感、共鳴、共創へ向かう学びがこの施設でも展開されるとよい。

『子どもたちから始まる、つながりと循環の物語』

- ・ 保育園の中に「コミュニティスペース」があり、地域の方が来やすくなるきっかけになる。また、「コミュニティコーディネーター」を配置して、地域の方との橋渡し役となっている。
- ・ ある子どもの「海ってなんで色がついているんだろうね？」という疑問から、海についての興味が広がり地域の事業者等の協力も得ながらさまざまな体験をした。子どもが興味をもった瞬間を逃さず、広げることを大切にしている。
- ・ 乳幼児は、学習の主体者ではないという印象を持たれるかもしれないが、「遊び」を通して学んでおり、手を動かして何かを作るなどの実体験と、多くの人との関わりから学んでいる。
- ・ 子どもたちを1人の市民としてまちと関わるきっかけを作ったり、もしくはまちの方に関わっていただくきっかけを作っていきたいと考えている。エコ re ゾートも、乳幼児を「何かを与える対象」としてではなく、「有能で、何かをできる存在」と捉えて関わってほしい。
- ・ イタリアのレッジョ・エミリア市に「REMIDA」というリソースセンターがある。地域の事業者等から提供された素材が集積する場所があり、子どもたちを含む市民がいつでもその素材に触れたり、買い取ることができる。ものづくり工房もそうしたリソースセンター的な地域のハブとなる要素だったり、子どもたちの創造力を発揮できるアトリエ的な要素が広がっていくとよい。
- ・ エコ re ゾートは、環境やサステナブルをはじめ、いろいろなことにこの地域で取り組んでいる人たちの出会いの場を作るとよいのではないかと。SDGsに関する映画の上映会をしながら、社会課題について一緒に考えるようなこともきっかけになるのではないかと。
- ・ 課題解決という視点だけでなく、そこにどういう面白いことを見つけるか。これは子どもの発言や表現からもらうことが多いが、問いを見つけて想像力を活かしながら、地域と地球を守る拠点にしていきたいと思っていた。保育園や幼稚園とエコ re ゾートの関係についても、ここからどんどんいろんな面で面白がれる地域にしていきたいと思っている。

(意見交換)

- ・ 行動にどうつなげるかというところが一番の課題になっていると思う。もっと大きい人はまず入口が重要だということもあった。先進的な事例とどうつなげるのかなかなか難しいと思った。
- ・ 幼児教育の学びの成果は、一般的に分かりにくい部分もあるが、事例紹介では現場の先生方による、子どもの発言の記録や写真があり、環境の教育においても大事なのではないか。パッと分かりやすいアウトプットが出ないところにも、すごく価値があるのだと改めて感じた。
- ・ エコ re ゾートのイベントについて、季節ごとなど長い周期でなく、毎週やっているような形だと、子どもたちにも分かりやすいのではないかとと思う。